



## 浜田市子ども読書活動推進計画に基づく ワークショップ

読み聞かせボランティアの皆さんで、語り合ってみませんか？

2月9日に「第3次浜田市子ども読書活動推進計画に基づくWS」を開催しました。市内各地域で読み聞かせをされている方や、学校司書、図書館司書23名が参加され、子どもの読書活動を進めていく上で、「困っていること」「活動していて良かったこと」「行政に要望したいこと」について、意見を交わし情報交換や交流を深めました。

当日は、悪天候で参加者が少なくなるのではないかと心配していましたが、多くの方が参加され、子どもたちに本の楽しさや読書の大切さについて伝えたいと、熱く語られる有意義なWSとなりました。「語り手が少ないよ、どうしたらええ。」「うちのグループでこんな勧誘をしとるんよ。」「やってみんさいや。」と和気あいの時間を過ごしました。



WSを始める前に、図書館長から浜田市「第3次浜田市子ども読書活動推進計画」の内容と推進している中での課題について説明がありました。

読書活動を通じて「夢をもち郷土を愛する人を育て」ためには、家庭・地域・学校・図書館が連携し協力していくことが大切です。」

また、「計画を進めていく上で読み聞かせボランティアの協力が不可欠ですが、ボランティアの輪が広がらないのが課題となっている。」と説明がありました。

その他に、市内23の小中学校の読み聞かせボランティアの活動状況や要望事項についてのアンケート調査を行った結果の報告もありました。



WSでは、「はまだ図書館友の会」栗栖さんにファシリテーターをお願いしました。

4つのグループに分かれて、自己紹介から始めました。最初は皆さん、硬い表情でしたが、時間がたつにつれ、普段の読み聞かせで培われている話術で互いの意見を引き出あっていました。

話の中では、計画の課題解決についての意見も出ましたが、行政に望むことが多く出ました。

あっという間に、予定時間となり、最後にグループごとに発表をして終わりとなりました。



## グループの発表内容の紹介

### 【1班】

- ・ブックスタート事業が担当課とボランティアの間に、連携が取れるようになった。
- ・各乳児検診時に図書館カードが作れるようにしてほしい。
- ・読み聞かせが、子どもたちに浸透し、入学してくる子の聞く態度がよかった。

- ・放課後児童クラブでの読み聞かせボランティアが少ないので、夏休み学生にお願いしたい。
- ・夏休みは、放課後児童クラブと保育所が集まりラジオ体操の後、読み聞かせをしている。

- ・中学校の読み聞かせボランティアが少ないので、お父さんにも呼びかけてはどうか。
- ・読み聞かせで1年間が終わると、各学年から感謝やお礼の綴りをいただき、励みになる。
- ・読み聞かせをした本を、他の学校図書館に展示すると連携が生まれるのではないかな。

- ・読書推進の会定例会への参加者が少ないので、活動内容を明確にし幅広く周知しましょう。
- ・市立図書館からSNSを発信してはどうか。
- ・市立図書館での読み聞かせに、図書館職員と連携し取り組んではどうかな。

### 【2班】

- ・ブックスタート事業での読み聞かせに、両親が熱心に聞いてくれ、励みになる。
- ・検診時に図書館カードを作ることが出来ないか。

- ・まちセンで、高齢者と子供たちが好きな本を選び、お互いに読み合う企画があり良かった。
- ・放課後児童クラブと図書館の繋がりがあまりないので、交流の場を設けて欲しい。

- ・学校での読み聞かせボランティアが少ないので、増やすために学校も協力してほしい。
- ・学校での読み聞かせ時間が短くなった。元の時間に戻らないのだろうか。
- ・三階小は読み聞かせボランティアが多い。保護者同士の呼びかけが大切である。

- ・図書館の誰に子どもの本を相談したらよいかわからないので、担当者を置いて欲しい。
- ・ボランティア同士の交流がないので、交流を兼ねた読み聞かせの研修会を企画してはどうかな。

### 【3班】

- ・ブックスタートは良い事業なので継続し、出来れば1歳半・3歳児検診でも本を提供してほしい。
- ・ブックスタート事業を継続させるため、ボランティアの育成の仕組みを考える必要がある。
- ・家読の大切さを伝える、浜田親子共育プログラムを継続し充実させていく必要がある。

- ・まちセンで、親子で本を読む企画をして欲しい。
- ・放課後児童クラブとまちセンが協力し、子どもたちの長期休暇の過ごし方について話し合い読書に関する企画を取り入れてはどうか。

裏面へ続きます



### 【3班】

- ・保育園の子どもたちに、好きな絵本の絵を書いて、図書館に展示した例があるが、図書館と保育園等の連携を深めるので継続的に実施してはどうか。
- ・成長した子供が、朝のおはなし会がとても楽しかったと言って来て嬉しかった。
- ・読み聞かせボランティアを対象とした、研修会を実施して欲しい。

- ・図書館の児童コーナーの環境づくりが必要なので、週末は専門スタッフを配置できないか。(職員が無理なら、ボランティアを募ることも必要。)
- ・図書館イベントの参加人数が減少しているので、SNSなどを活用することも大切である。
- ・各ボランティアで困っている事を相談できる仕組み作りが必要である。現状の相談場所としては、推進の会が定例会を行っているのではまずは、そこで相談してはどうか。
- ・読み聞かせボランティアが固定化し広がりがないので、まちセンや学校、図書館で読み聞かせ体験会を開催してはどうか。
- ・石見まちセンでは、読み聞かせの地域デビュー講座を実施しているので他のまちセンや図書館で実施したらよいのではないか。

### 【4班】

- ・子育て支援センターや家庭での読み聞かせを行った本の履歴を共有化してはどうか。できれば、本の感想や評価も明記したらよい。

- ・まちセンで、高齢者を対象とした読み聞かせを企画し、読み手を中高生にお願いしてはどうか。本の繋がりや年齢を超えた交流が出来るとよいと思う。
- ・まちセンに本が置いてあるが、場所や棚などを整備して欲しい。
- ・放課後児童クラブで読み聞かせを行っているが、今後も継続して欲しい。

- ・各学校での読み聞かせをした本の書名や概要、コメントを学校間で共有出来た良い。
- ・年齢や学年に応じた選書が難しいので、学年でどのような内容の勉強をするのかかわると選書しやすくなる。学校との情報交換が必要である。
- ・読み聞かせが自己流なので、専門の研修を受ける機会が欲しい。
- ・研修を受講することも必要だが、読み聞かせの手引き書やインターネットetcを活用し情報を得ることも出来る。

- ・読み聞かせの技術や、知識のアップデートができていないので、定期的な研修会を実施してはどうか。(出来れば、図書館主催で企画して欲しい。)
- ・いろいろなイベントへ、ラブック号を出現させて子どもたちに本に興味を持ってもらう。
- ・電子書籍や、検索・予約システム等の利用方法を子どもたちに指導して欲しい。
- ・プロの話し手に招待し、子どもたちに読み聞かせの面白さを感じてもらってはどうか。



\*\*\*\*\*

### 【まとめ】

今回、初めて企画したWSに多くの読み聞かせボランティアの方が参加くださいました。みなさんが子どもたちへ本の楽しさを伝えたいという熱意を改めて感じたところです。各グループとも、読み聞かせは良いことなので継続させていきたいという思いを持っておられました。しかし、継続させるためには、メンバーの勧誘が必要だが集まらないので困っている状況にあることもわかりました。

また、自己流での読み聞かせなので、これよいかという不安も感じられており、研修の機会を設けて欲しい要望がありました。

情報交換することで、アイデアが浮かんだり悩みが解決することがあるので、このような企画を年1、2回は開催して欲しい要望もありました。

今回出された、貴重な意見や要望は、各担当課で共有し今後の子ども読書活動推進計画に反映させていただきまます。

このWSが、最初の取り組みとなりましたが、今後とも皆さんの意見や要望を聞きながら計画を進めてまいりますのでご協力ください。

\*\*\*\*\*

### 第3次浜田市子ども読書活動推進計画

子どもの読書活動は、「こどもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことが出来ないもの」であり、地域社会全体で子どもの読書活動の推進に取り組むことは極めて重要です。

#### 第3次計画の基本的な考え方

- ・この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づき策定。
- ・期間は、平成4年度から平成8年度までの5年間です。
- ・基本理念は、「夢をもち郷土を愛する人を育みます」
- ・基本目標は、「読書に親しみ、自ら学び、夢をもつ豊かな心を育む」
- ・基本方針は、【家庭】【地域】【学校等】【図書館】において子ども読書活動の推進を図ります。

【計画の体系イメージ図】

